



能登やさしいこめづくり情報

令和3年8月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
JA能登わかば

早生収穫編

「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

1 生育概況と当面の管理

・ゆめみづほの出穂期は7月20日であったことから、今年の刈取り適期は8月23日～29日の予想となっています(8/10時点)
 ハナエチゼンの出穂期は7月18日であったことから、今年の刈取り適期は8月21日～27日の予想となっています(8/10時点)
 ・7月14日の梅雨明け以降、高温となる日が続いています。今後も気温の高い日が続くことから高温登熟年(出穂以降、高温で経過)となると予想され、このような年は乳白粒や胴割粒の発生が多くなります。当面の管理としては、刈取り直前まで適正な水管理(①乾かさない! ②ずっと溜めない! ③早期落水しない!)を継続し、登熟の向上に努めましょう。
 ・また、中能登エリアでは、乾燥・調製の際の「もみ混入」や「肌ずれ」による落等が目立っています。適切な乾燥・調製を心掛け、品質の向上を目指しましょう。

2 刈取りまでの水管理 **【ポイント 刈取り直前まで適正な水管理を継続しましょう!】**

・登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。間断通水を刈取り直前まで継続しましょう。
 ・ため池など用水不足が懸念される地域では、計画的な水管理に努めましょう。

【間断通水の徹底】

- ポイント① 乾かさない!** ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、土壌の飽水状態を保ちましょう。
 <注意> 日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ夕方に通水しましょう。
- ポイント② ずっと溜めない!** ⇒ 気温が高い日中の湛水状態は根の機能を低下させるため、避けましょう。
- ポイント③ 早期落水しない!** ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水をしましょう。

※台風が発生した場合は・・・台風の接近によりフェーン現象(熱風や高温)が発生する場合は、入水し一時的に湛水状態を保ち、稲体の急激な乾燥を防ぐようにしましょう。フェーン現象が治まったら、湛水状態をやめ、排水しましょう。

3 早生品種の刈取り時期の目安 (出穂期と積算温度による刈取り予想)

※8月17日に早生の刈取適期調査を行い、その結果を同19日各支店、各アグリセンター店頭またはJAホームページに掲載します。

品 種	出穂期	刈取り時期	(前年の刈取り時期)
ゆめみづほ	7月20日	8月23日～29日 (籾黄化率 85～90%)	8月27日～31日 (籾黄化率 85～90%)
ハナエチゼン	7月18日	8月21日～27日 (籾黄化率 85～90%)	8月25日～29日 (籾黄化率 85～90%)

籾黄化率80%の
穂のイメージ



刈取り時期は、出穂期や田植え時期、ほ場や生育条件、天候によって前後します。
 上記の刈取り時期は目安とし、ほ場の『籾黄化率』を必ず確認した上で、適期収穫に努めてください。
 [参考]籾黄化率とは・・・1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。

【高温登熟年: 籾の黄化程度による刈取り適期判断の目安】

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	15～16日後	12～13日後	10日後	7～8日後	5日後	2～3日後	適期～刈終り	刈遅れ

高温登熟年は籾の黄化が一気に進む

収穫期間

4 刈取り時期と刈取り作業

(1) 刈取り時期について **【ポイント 籾の黄化率を確認し、刈取遅れはしない!】**

・高温登熟年は、籾の黄化が早くなるため刈取り適期が短く、刈り遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生しやすくなります。
 ・そのため、高温登熟年では下記の刈取り目安を参考に、適期刈取りに努めましょう。

【高温登熟年の刈取り目安】

- 籾黄化率80%から収穫を開始し、刈り遅れないよう黄化率85%までに収穫を終えましょう。
- 高温登熟年における早生の刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で900～950℃

[参考]登熟積算温度とは・・・出穂期以降の日平均気温の積算で算出できます。

(2)刈取り作業の注意点

①刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

・クサネムの種子(右の写真)は、ライスグレーダーで取り除けないため、異物混入で落等の原因となります。



クサネム種子(黒い粒:左)

②早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒・未熟粒・着色粒が発生しやすくなります。

③刈り取った籾は、速やかに乾燥機に張り込みましょう。

・刈取りから**4時間以内に乾燥機へ張込み、通風**しておくことで、ヤケ米の発生を防止することができます。
・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、**降雨直後などは無理に収穫を行わない**ようにしましょう。

5 乾燥・調製作業

(1) 乾燥作業の注意点

①急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

・乾燥は**35℃以下で、乾減率0.8~1.0%/時程度**としましょう。

②籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。

・**籾水分は、14.5~15.0%**になるように仕上げましょう。
・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。
・**高温登熟年は、適期に収穫しても籾の水分にムラがあるため、『2段乾燥法』**を

【乾燥機の停止水分判定表】

用いましょう。

[参考] **2段乾燥法**とは……
籾水分を一旦、18%程度で乾燥機を止め、5~8時間おいて調湿した後に、14.5~15.0%に仕上げ乾燥を行う方法のことです。
・青米粒の混入割合によって、乾燥機を止める時の水分や停止後の水分変化が違うため、注意しましょう(右の表を参照)。

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0~5粒	15.5~15.1%	乾く(下がる)
6~10粒	15.0~14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	戻る(上がる)

(2) 調製作業の注意点

①事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に**籾水分(14.5~15.0%)**を確認しましょう。
・作業開始前だけでなく、**作業中も籾摺りの程度をこまめに確認**しましょう。
・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施してください。

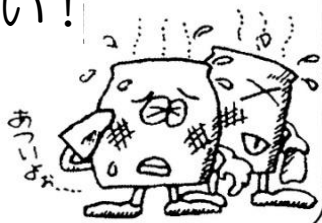
②ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。
・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換してください。

③ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

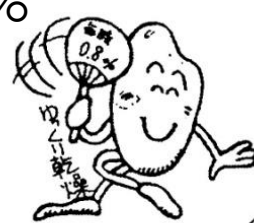
ヤケ米

生籾の長時間貯留はしない!



胴割米

仕上げ乾燥は、ゆっくりと行う。(毎時0.8%以下の乾減率が最適)



過乾燥米

仕上げ水分は、14.5%~15.0%とする。



【適期刈取、適正な乾燥調製作業の徹底!!】

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、収穫作業は籾黄化率80%から開始し85%までに終わらしましょう!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈り取った籾は速やかに乾燥機に!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生防止!!!

【注意!!】カメムシ防除剤としてキラップ粉剤DLやキラップ粒剤、キラップフロアブルを散布した場合は、散布日から14日以降での刈取りを厳守してください(上記の農薬は、使用時期が「収穫14日前まで」と定められています)。